

2025 年度和泉短期大学卒業後 3 年～7 年卒業生のアンケート

調査対象：卒業後 3 年～7 年の卒業生（2016 年度生～2020 年度生）

調査内容：勤務状況及び「教育の成果と効果」調査

- 1 調査目的：卒業生の就業状況を把握することで、本学の定める卒業認定・学位授与の方針を満たしているかを確認し、教育の質保証を図ることを目的とする
- 2 調査件数：947 件（卒業者数 199・176・193・180・199 名）
- 3 調査方法：今年度よりホームページ、Instagram で回答用 QR コードを表示し卒業生に呼びかけを行った。
- 4 調査期日：2025 年 12 月
- 5 調査項目：報告書のとおり
- 6 回答期限：2026 年 1 月 12 日
- 7 回答数：27 件（2.9%）
（2024 年度 26 件、2023 年度 35 件）

〔結果と分析〕

◇選択式設問

- ・対象者は卒業後 3 年～7 年の卒業生である。66.7%が卒業時と同じ勤務先に現在も務めているとの回答であった一方、約 3 割が離職していた。離職の理由（複数回答）で最も多かったのは「職場における業務負荷」で 62.5%だった。
- ・「和泉の 10 の力」に関する回答では、「子どもや利用者の人権を尊重」についてが、他の項目に比べて高い。卒業生を雇用する事業所の方を対象とした「雇用満足度調査」でもこの項目は上位に挙げられている。卒業生の意識だけでなく、雇用する側からもその実践が高く評価されていることを踏まえると、福祉を学ぶことで培われた人権尊重は本学卒業生に根付いていることが窺える。
- ・その他にもさまざまな角度から質問しているが、なにぶん回答率が低いため何らかの傾向を把握するまでには至らない。卒業生の実態をより詳しく把握するため、回答を促す方策や工夫を取り入れていく必要がある。

◇自由記述設問

- ・「現場で役に立った本学での学びは何ですか」の問いに対しての自由記述で複数回用いられている単語が複数あった。
- ・このうち、「子ども主体」「子ども主体の保育」/「言葉の授業」「言葉」があり、これらが学生に資する学びになっていることが窺える。
- ・「障がい」「障がい児」については、「学生時代にもっと学んでおけばよかったことは何ですか」にも記述がある。障がいのある子どもの保育について本学では体系的に学んでいるが、やはり現場で会う子どもは当然一人ひとり状況が異なるためであると推察される。
- ・同様に、「リトミック」/「パソコン」も、いずれにも記述がある。これらの学びが卒業生の仕事に役立っているが、現場で求められる状況があるため、より深く学んでおけばよかったと考えることが示唆される。

2026 年 2 月 5 日

和泉短期大学 学生委員会